

# 「3rd APHW Conference」への参加



研究第二部 主任研究員 田村 英記

## 1. はじめに

第3回アジア太平洋地域水文水資源国際会議(3rd APHW Conference) Asia Pacific Association of Hydrology and Water Resources”はアジア太平洋地域の適正な水資源管理、気候変動、災害などのテーマについて、研究成果を報告し、水環境・水資源に関する教育のあり方や技術交流について議論するために開催された。

過去に、第1回目は2003年3月に京都で、第2回目は2004年7月にシンガポールで開催され、今回は10月16日～19日の4日間で、タイの首都バンコクにて開催された。

## 2. 会議概要

会議は、「持続的に成長する社会のための堅実な水資源管理」をメインテーマとし、以下のサブテーマにより発表が行われた。

- \* アジア太平洋地域の特性及び水問題
- \* 過去からの教訓
- \* 賢明な水管理の方向性
- \* 安定的な水資源の利用
- \* 気候変動と災害



会場の様子

具体的には日本水フォーラム事務局長 竹村公太郎氏(財団法人リバーフロント整備センター理事長)の他、2名による基調講演を始め、サブテーマごとのオーラルセッション、ポスターセッション、また、企業展示等が行われた。

竹村事務局長は “Investment in Water Infrastructure and its Effects in the Modernization of Japan” (日本の近代化における水インフラ投資と効果)をテーマに基調講演を行った。竹村事務局長は、江戸幕府が利根川を東京湾から太平洋に流れを変えた「利根川東遷」という治水事業が、東京を守り、日本の首都へと発展させたことを挙げられた。また、東京を始めとする都市に人口と資産が集中したことによる治水対策や日本の地勢上、水供給対応もダムによって、支えられていることを述べられた。最後に都市部の河川環境への取組みを多摩川や隅田川を事例に話され、治水、水資源の確保、河川環境整備の観点



日本水フォーラム事務局長  
竹村 公太郎氏

から、水インフラが日本の近代化の礎となったことを講演された。

財団法人リバーフロント整備センターとしては、“Comprehensive measures for preservation of natural hydrological system in large-scale urban development”(大規模開発における健全な水循環系確保のための総合的な対策)をテーマに、ポスターセッションにて報告させて頂いた。都市再生機構が施工している東京の八王子ニュータウンは、造成段階から浸透ますや透水性舗装等の雨水貯留浸透施設を計画的に設置する水循環再生システムを導入している。当財団は、この効果を検証するため都市再生機構の協力を得て研究をしている。



通常、このような開発行為が行われると雨水の地下への浸透が抑制されてしまうため、平常時の河川流量が減少しやすい。しかし、この開発区域内を貫流している兵衛川の平常時の流量は、開発前よりも増加していることが現地観測結果から判明した。また、フィルター分離AR法を用いた予測計算をしたところ、将来も平常時の流量が確保されることも検証した。今回、平常時の河川流量に着目し、この開発区域において造成段階から雨水貯留浸透施設を設置することが、健全な水循環系の確保に有効であると報告した。



福島大学 虫明教授と

## 3. おわりに

アジア太平洋地域は雨期が訪れるモンスーン気候であると同時に、様々な場所で都市化も進んでいることから、治水や水資源の確保等、その地域に応じた課題を持っている。その課題を検討していく上で、健全な水循環系の確保を踏まえた対策が改めて必要であると感じた。実際にポスターセッションの中で、具体的な対策内容の質問が多く、興味を持つ研究者が多いことがわかった。

最後に、本会議の参加にあたり、多大なる御指導を賜りました福島大学虫明教授、そして、調査データ等の資料を提供していただき、貴重な御意見を賜りました都市再生機構に心から感謝を申し上げます。